

「アジア海域の安全確保、環境保全のための海上保安能力の向上プログラム」に係る国際学会参加報告書

1 International Workshop on Coping with Crises in Complex Socio-Economic Systems CCSS 2011 の参加 (岩永佐織)

イ 期間

平成 23 年 6 月 18 日 (土) ~平成 23 年 6 月 27 日 (月) 10 日間

ロ 場所

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 **ETH Zurich** (スイスチューリッヒ)

ハ 海外調査の内容

本学会は、経済市場、社会インフラ、政治的暴動を含む危機などの領域における研究において、理論的かつ実験的な分析手段によって、その原因と解決策を理解することを目的としている。

開催期間を通じて、大規模災害、財政危機、紛争や戦争などの大規模な危機の解決に貢献するための経済学、社会学、物理学、情報工学など様々な研究発表を聴講し議論した。また、「**Collective behavior in diverse social networks**」と題して研究発表し議論を行った。

International Workshop on Coping with Crises in Complex Socio-Economic Systems (概要集), p.16.

2 国際測地学・地球物理学連合学会 (The International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)) の参加 (川村紀子)

イ 期間

平成 23 年 12 月 8 日 (曜日) ~平成 23 年 12 月 11 日 (曜日) 4 日間

ロ 場所

Convention and Exhibition Centre(オーストラリア メルボルン)

ハ 海外調査の内容

この学会は、国際測地学・地球物理学の研究分野において最も権威のある学会の一つとして知られている。講演会は、4年に1回の頻度で開催され、世界中から数多くの研究者が集まることが期待される。今回は海底に分布する鉄化合物の形態変化についての研究において第一線で活躍しているイギリスのサザンプトン海洋研究所のアンドレイ・ロバーツ教授がコンビーナとなり、多くの講演が行われた。研究発表(Diagenetic alterations of magnetic signals in Labrador Sea sediments (IODP Sites U1305, U1306, and U1307))を実施した。

3 国際犯罪学会第 16 回世界大会 (16th World Congress International Society for Criminology) (河村有教)

イ 期間

平成 23 年 8 月 5 日 (金) ~平成 23 年 8 月 10 日 (水) 6 日間

ロ 場所

神戸国際会議場 (兵庫県神戸市)

ハ 内容

国際犯罪学会第 16 回世界大会は、神戸国際会議場にて、「グローバルな社会・経済的危機と犯罪統制対策—地域・国家間の比較」をテーマに開催された。東日本大震災、福島第一原発の事故の影響が懸念され、国外からの参加者の取り止めが多くなされたものの、1467 名 (海外からの参加者 317 名) が参加した。

本大会のテーマは、「グローバルな社会・経済的危機と犯罪統制対策—地域・国家間の比較」であり、世界各国において、どのような犯罪予防戦略で、グローバルな経済危機による犯罪状況の変化にのぞんでいるのか積極的に議論がなされた。

本大会においては、「オルタナティブな視点における刑事政策」というセッションを企画し、自らも被害者と加害者による対話にもとづく修復的司法に関する研究報告を行った。

Issues of Criminal Policy in Alternative Perspective

7th August 5:15-6:45 (90minutes) Room 504, KICC

Organizer: KAWAMURA, Arinori (Japan Coast Guard Academy)

Chair: PARMENTIER, Stephan (Catholic University of Leuven)

17:15-17:35

A Confluence of Alternatives: The Merging of Mennonites and Peace Projects in Kenya

ISHIDA, Shin-ichiro (Tokyo Metropolitan University)

17:35-17:55

Practice of Traditional Criminal Settlement and Restorative Justice

KAWAMURA, Arinori (Japan Coast Guard Academy)

17:55-18:15

Private Policing on a Franchise Contract: Neo-Feudalism of Risk Management in Late Modern Japan

KUBO, Hideo (Kyoto Sangyo University)

18:15-18:35

To Greet or Not to Greet: Living Childhoods with Insecurity in Japan

UMINO, Rumi (Ochianomizu University)

18:35-

Free Discussion

4 米国物理学会第 53 回プラズマ物理分科会年会 (53rd Annual Meeting of the Division of Plasma Physics of the American Physical Society) の参加 (神吉隆司)

イ 期間

平成 23 年 11 月 13 日(日)～平成 23 年 11 月 20 日 (日) 8 日間

ロ 場所

ソルト・パレス・コンベンションセンター、ソルトレイクシティ (米国)

ハ 海外調査の内容

米国物理学会プラズマ物理分科会は、米国国内最大のプラズマ物理分野の会議で、毎年1回11月頃を開かれ、今回で53回目となる。今回は、気体電子会議 (Gases Electronics Conference) と合同共催であった。

会議は最終日を除き、学術講演が朝8時から夕方5時まで行われるのに加えて、5時半以降には、タウンミーティングやパネルディスカッションが開かれ、「ITERの現状の紹介」、「大学における核融合研究のあり方」等に関するテーマで、発表や意見交換が夜の9時過ぎまで行われた。学術講演は、毎朝8時から9時の間は1会場のみを使用して、プラズマ物理の分野で現在注目されている研究に関する最新のレビュー講演と今年度の「マクスウェル賞」の受賞講演が行われた。その後、4～8ヶ所の会場に分かれて招待講演と口頭発表が終日行われ、それと並行して1つの会場でポスターセッションが開催されるという形式であった。内容は、磁場閉じ込め・慣性核融合プラズマから基礎・応用プラズマ、宇宙プラズマと幅広い分野にわたっていた。発表件数は、招待講演が約100件、口頭発表が400件弱、ポスター発表が1200件強であった。招待講演・口頭発表と並行して、プラズマ物理に関連した3つの分野でミニ会議が行われ、60件強の口頭発表がなされた。

会議の初日、波動・乱流・流れ、非中性・ダストプラズマ、磁場反転配位・スフェロマックのセッションで3時間にわたってポスター発表を行った。今回発表した論文題目は、「Nonlinear MHD simulation of current drive by multi-pulsed coaxial helicity injection in spherical torus (球状トーラス (ST) におけるマルチ・パルス同軸ヘリシティ入射による電流駆動の非線形磁気流体シミュレーション)」であり、本論文は、コンパクトな磁気閉じ込め配位であるSTプラズマの同軸ヘリシティ入射による電流駆動の3次元磁気流体シミュレーションを実施し、その電流駆動過程における磁場・速度場構造のダイナミクスについて議論を行ったものである。

Bulletin of the American Physical Society (Program of the 53rd Annual Meeting of the Division of Plasma Physics, Salt Lake City, USA, 14-18 November 2011) **56** (2011), CP9.00108.

以上